



勢理グスクにひっそりと佇むシーサー。今も富盛のムラを守っている

村落獅子として  
沖縄県内で「一番大きくて」一番古い  
「富盛の石彫大獅子」

「富盛の石彫大獅子」は、字富盛の勢理グスク(ジリグスク)というお城跡の頂上に置かれています。火除け(火返し)として、1689(尚貞王21)年に安置されたもので、勢理城からほど近いフィーザン(火山)といわれる八重瀬嶽(ヤエセダケ)に向かっています。大きさは、高さ141.2cm 全長175.8cmもあり、沖縄県内の村落獅子の中では一番大きな石獅子です。

古い書物には、「その昔、富盛村にたびたび火事がおこるので困った村人は、久米村(現 那覇市久米)の風水師・蔡応端(太田親雲上)に頼んで村の風水(地理)を見てもらうと、『八重瀬嶽に火の性がある。早く獅子の形を作って八重瀬嶽に向けて立てよ』と教えられました。村人は早速、獅子を作って八重瀬嶽に向けて置くと、火事が起こらなくなりました」と書かれています。(※『球陽卷八』尚貞王21年 より)

その後、獅子を設置すれば災難を防ぐと信じられ、各地に村落獅子が広まっていきました。今でも、沖縄県内各地で集落の入り口に置かれたシーサーを見ることができますが、「富盛の石彫大獅子」は村の守り神として置かれた獅子像の始まりといわれています。



⑫ - A 1

八重瀬岳にいる日本軍を睨むアメリカ兵

1945年沖縄戦末期、日本軍司令部が那覇市首里から沖縄本島南端(糸満市・摩文仁)に撤退すると、司令部の壕からほど近い八重瀬町は激戦地となりました。

今でも石獅子に残る弾痕は、当時の戦闘の激しさをうかがうことができます。

ようこそ、1万8千年の歴史へ

1万8000年前の人骨 港川人

「港川人」は、八重瀬町字長毛の採石場(※)から1968年～71年にかけて大山盛保さんによって発見された今から約1万8000年前の人骨化石です。

全部で5体～9体の人骨が発見されています。

「港川人」と同じ旧石器時代の人骨化石は国内の数ヶ所から発見されていますが、「港川人」のように、頭から足の先まで揃っている人骨化石はとめめずらしく、その古さと保存のよさにおいて、日本の人骨化石としてはもっとも価値の高いものです。

「港川人」は、私たちと同じ新人(ホモ・サピエンス)に属し、身長はおおよそ150cm前後で、現代人に比べると肩幅が華奢で、足腰がしっかりしています。その骨格から、狩猟採集の生活をしていただと考えられています。

※現在採石は行われていません。



港川1号人骨(レプリカ)

～港川人の来た道～

最初の人類・猿人は今から約700万年前アフリカで誕生しました。その後、様々な人類が誕生し絶滅しました。私たち現代人を含む新人(ホモ・サピエンス)は、今から約20万年前にアフリカで誕生し、そして、10～6万年前に世界中へと旅立っていきました。

「港川人」はどのようにして日本(沖縄)へたどりついたのでしょうか。「港川人」はインドネシアから発見されたワジャック人などとよく似ていることから東南アジアを経由して4万年～3万年前に沖縄にたどり着いたと考えられています。

その後、この地に留まったのか、沖縄を飛び出し、別の地へと向かう旅を続けたのか。まだわかっていません。港川人に関するナゾはまだ多く残っています。

「港川人」についてもっと知りたい人のために



港川人が発見された  
港川フィッシャー遺跡

⑬ - H 4

フィッシャー(岩の裂け目)下部より「港川人」が発見されました。



八重瀬町立 具志頭歴史民俗資料館

⑭ - K 1

住 所 沖縄県八重瀬町字具志頭352番地  
電 話 098-835-7500  
観 覧 料 大人200円 / 小人100円  
営 業 時 間 9:00～17:00(入館16:30まで)  
休 館 日 毎週月曜日







# 見る! 歩く! 遊ぶ!

## ① 具志頭のフクギ並木

フクギは、1613年具志頭間切番所が設置された時に、具志頭間切の手によって植栽されたといわれており、現在約120mのフクギ並木が続いています。



① 具志頭のフクギ並木

15 - A 1

## ② ハナダー(自然橋)

ハナダーは、川の水が琉球石灰岩を侵食してきた自然の橋です。橋の長さは約29m、明治期の頃、ハナダーを見た上杉県令は自然の作り出した造形の美しさに感動したと伝えられています。



② ハナダー(自然橋)

15 - A 2

## ③ 具志頭遊歩道

約600mの遊歩道には亜熱帯の植物が広がり、そこにはざっと数えても100種類を超える植物が自生しています。遊歩道へのんびり歩きながら森林浴を楽しむことができます。



③ 具志頭遊歩道

15 - A 3

## ④ 具志頭・坡名城海岸

2400年ほど前にあった地殻変動で約2m隆起した海岸には、礁原が広がり、陸の近くには巨大なブリと呼ばれる岩が林立しています。また海側のイノーを歩いているとそこに暮らしている色々な生き物を水面から見る事ができます。



④ 具志頭・坡名城海岸

15 - B 5

## ⑤ 具志頭城址公園

城址公園は、14世紀中頃から15世紀頃にグスクとして使われており、代々具志頭按司の居城であったと伝えられていますが定かではありません。沖縄戦では激戦地だったこともあり、戦後早くから慰霊碑が建立され公園として整備されました。現在、「魄粹の塔」「土佐の塔」「甲斐の塔」などがあります。

## ⑥ 八重瀬公園

八重瀬公園は14世紀中頃から15世紀頃に八重瀬グスクとして使用され、八重瀬(エージ)按司の居城跡と伝えられています。調査では、輸入陶磁器、土器、石製品、鉄製品、貨銭、青銅品などが発見されました。毎年、1月下旬から2月上旬にははさくら祭りの会場として花見客で賑わっています。

## ⑦ 当銘・小城の窟(西部プラザ公園)

当銘と小城が共有する窟は、西部プラザ公園内に保管されています。窟は1833年に首里王府から拝領されたと伝えられており、当銘・小城では毎年旧暦の8月10日に窟の御願が行われています。また、「窟甲行列」といわれる窟の年忌祭が、死者供養の年忌と同じ1、2、3、7、13、25、33年ごとに行われます。

## ⑧ 当銘のガジュマル

当銘のガジュマルは、幹回り18m、高さが12m、樹齢は推定で300年といわれています。沖縄県環境保健部自然保護課実施の「昭和63年度巨樹巨木林調査」において沖縄No.3の巨木に選ばれました。

## ⑨ 世名城のガジュマル

幹周りが約23.5m、高さ約10mで樹齢は推定で250年といわれています。沖縄県環境保健部自然保護課実施の「昭和63年度巨樹巨木林調査」において沖縄No.1の巨木に選ばれました。



⑥ 八重瀬公園

11 - H 3



⑦ 当銘・小城の窟

15 - J 4



⑧ 当銘のガジュマル

15 - H 5



⑨ 世名城のガジュマル

19 - A 4



⑤ 具志頭城址公園

15 - E 1

## 沖縄戦の記憶

# 八重瀬町の戦跡

米軍の進撃ライン



## 沖縄戦とは

今から約68年前、太平洋戦争末期の1945年沖縄諸島に上陸したアメリカ軍を主体とする連合国軍と日本軍との間で行われた国内で最大の地上戦のこと。1945年3月26日から始まり、主要な戦闘は沖縄諸島で行なわれ、組織的な戦闘は6月23日(または、6月22日)まで続いた。地形が変わるほどの激しい艦砲射撃が行われたため、この戦闘は沖縄県では「鉄の雨」や「鉄の暴風」と呼ばれている。沖縄戦では今の中学生から高校生にあたる男子学生が通信兵や特攻兵として、女学生は補助看護婦として参加させられた。



10 - D 8

### 第24師団第一野戦病院新城分院(ヌヌマチガマ)

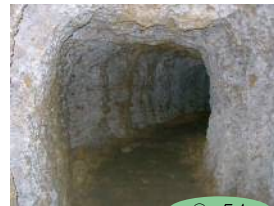
全長500mの自然洞窟。戦況の悪化により傷病者が増加したため、第24師団第一野戦病院の分院として使用された。1945年4月下旬には白梅学徒も5名配属され、約1000名がひしめきあうガマの中で、昼夜を徹して過酷な任務についた。白梅学徒の任務は主に、負傷者の手術や包帯交換時の明かり持ちや、排泄物の始末、切断された手足の処理などであり、6月3日に分院が閉鎖されるまでその勤務は続いた。分院撤退時は身動きできない重症兵約500名に毒薬の青酸カリが投与され、飲み込めない兵士や、薬が効かずに苦しんでいる兵は、注射や銃剣で止めを刺された。



11 - J 2

### 第24師団第一野戦病院本部壕・手術場壕

1944年7月に日本軍を主導とし、地域住民も動員して構築され、1945年3月24日に県立第二高等学校「白梅学徒隊」が米軍の空襲と艦砲射撃に追われるようにして本部壕に配属される。八重瀬岳の病院本部壕から西へ約80m程の高台にある。4月中旬から使われた手術場壕は、「富盛上の壕」と呼ばれている。米軍が近くまで侵襲してきた6月4日には本部壕に解散命令が下され、白梅学徒隊は沖縄戦の戦火の中をさまようこととなる。



15 - E 1

### クラシンウジョウの壕

クラシンウジョウから東側数キロにある港川に、米軍が上陸することを予想して、陣地壕として構築された。しかし、米軍は港川からは上陸せず、沖縄県中部の読谷村渡具知海岸から上陸した。当時の日本軍と米軍の戦力は雲泥の差があり、クラシンウジョウから米軍を確認できる位置にありながらも、1発砲弾を撃ち込むことで自軍の位置が米軍にわかってしまうことから、日本軍からは砲撃をすることが叶わなかった。



11 - K 2

慰霊碑(八重瀬の塔)八重瀬公園入口  
激戦地だった八重瀬岳の麓に戦後富盛区の人々が建立した。



15 - D 2

慰霊碑(土佐の塔)具志頭城址公園内  
高知県出身戦没者ゆかりの地である具志頭の丘の村有地に、昭和31年「高知県戦没者慰霊塔」が有志の手により設立されていたが、その維持管理が不十分な面があったため、新しい慰霊塔建立の要望があり、塔の周辺に土地を確保整備し、昭和41年11月22日に土佐の塔を建立した。塔石には高知県産の青石を使用している。



15 - D 1

慰霊碑(甲斐の塔)具志頭城址公園内  
「甲斐の塔」は、太平洋戦争における本県関係戦没者22,051柱を慰霊するため、昭和41年11月8日に「大東亜戦争戦没者慰霊塔建設委員会」が、沖縄県島尻郡具志頭村具志頭城址に建立し、県に寄付した。以来、甲斐の塔維持管理委員会(県、県議会、市長会、町村長、市議会、議長会、町村議会議長会、遺族会の7団体で構成)が維持管理にあたり、毎年11月8日を「甲斐の塔」慰霊巡礼の日と定め、遺族代表と関係者により碑前で慰霊祭を行っている。



15 - D 1

慰霊碑(魄粹の塔)具志頭城址公園内  
具志頭区出身の戦没者がまつられていた慰霊碑。